

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	保育所等訪問支援（四天王寺悲田院児童発達支援センター）			
○保護者評価実施期間	令和 7 年 2 月 1 日 ～ 令和 7 年 2 月 28 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	令和 7 年 2 月 1 日 ～ 令和 7 年 2 月 28 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	5
○訪問先施設評価実施期間	令和 7 年 2 月 1 日 ～ 令和 7 年 2 月 28 日			
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	17	(回答数)	15
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 4 月 8 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種が訪問支援員として在籍している。 訪問支援員メンバー各々の経験が豊富。	・ご利用児のアセスメントや利用ニーズから、訪問支援員を決定している。 ・職員育成として、センター他事業の職員が保育所等訪問支援に同行し、地域の様子を実際に見聞きすることで、発達に課題を抱える児童の地域での過ごし方をイメージできるようにしている。	・職員（後進）育成を引き続き行い、多職種の訪問支援員を増員を図り、ご利用児の状態やニーズにお応えできるように取り組んでいく。
2	当施設が実施している他サービスとの連携がしやすい。 （週2回登園、医療外来など）	・ご家族の了解を得た上で、ご利用児が当施設で利用している他サービスの担当者同士で情報共有をしている。 ・訪問支援員がご家族、所属先、サービス担当者の橋渡し役として、意識して情報共有を行っている。	・「繋ぐ」を意識し、当施設だけに限らず、他事業所との連携も図っていく。
3	訪問時は時間をかけてご利用児の様子を見ることが出来る。 訪問当日に、担任の先生方と振り返りの時間をとり、ご利用児の様子をお互いに伝え合うことを大切にしている。	・訪問時に1日の生活の様子を見させていただき、困りごとへのアプローチだけでなく、ご利用児のトータルのなアプローチが出来るよう心がけている。 ・ご利用児の様子の共有やご家族からのお話以外にも、先生方のお悩みもお聞きし、先生方のご意見も大切にしながら取り組みを行っている。	・引き続き、ご利用児の様子やご家族、先生方のご意見をお聞きしながら、トータルのなアプローチが出来るよう取り組んでいく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問回数が定まっている。	・サービス待機利用児が常に一定数いる。 ・訪問支援員が当施設の他業務を兼任している。	・訪問支援員増員の為の職員育成を行う。 ・児童発達支援センターの中核的機能に求められている「地域のインクルージョン推進」との兼ね合いも検討していく。
2	サービス利用開始までに待機がある。	・訪問支援員が当施設の他業務を兼任しており、ニーズが上がった際にすぐに対応できる体制を整えることが難しい。 ・ニーズによって訪問する職種を決定しており、その職種の訪問対応人数が埋まっていると、すぐに対応することが難しい。	・訪問支援員増員の為の職員育成を行う。 ・ニーズが上がった際の緊急性も考慮し、訪問サービス希望児のアセスメントを通して、保育所等訪問支援サービス以外のサービス提案（巡回相談など）ができる体制も検討していく。
3	ご家族と連絡をとる時間が確保し辛い。	・ご家族の就労時間と当施設の開園時間が大体同じであり、就労されているご家族の方と連絡がとりにくい。 ・ご家族から折り返しの連絡があっても、訪問支援員が他施設に訪問しており、すぐに連絡を取り合うことができない。	・電話連絡だけでなく、他の連絡ツールがないか検討。 ・急ぎの要件等、必要に応じて訪問先に手紙を預けてご家族に渡してもらう等の対応も講じる。